

地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。

今号では、関西地域ブロックおよび中国・四国地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

関西地域ブロックから

関西地域ブロック担当理事
岡田 忠克（関西大学）

関西地域ブロックでは、1950年に設立された関西社会福祉学会の年次大会としての位置づけとして、毎年、研究大会が関西の各大学の持ち回りで開催されています。昨年度は、3月10日（日）に関西大学堺キャンパスにおいて「人口減少社会と社会福祉」をテーマに開催されました。近年、人口減少が注目されています。労働力人口の大幅な減少が現実味を帯びてきたことに加え、地方への影響についての危機意識が広まっています。人口減少やコミュニティ消失の問題を、社会福祉の研究、政策、実践、教育はどう捉え、どう取り組むのか。人口減少社会における社会福祉の課題について考えました。また、研究大会では、自由研究発表の枠を設けており、毎年10名程度の発表が行われています。

また、年3回開催されている若手研究者・院生情報交換会は、これまで44回の開催を重ねることができました。ひとえに関西地域ブロックの研究文化の歴史と各会員のご協力の賜だと思っております。2019年11月17日（日）に開催を予定している第45回若手研究者・院生情報交換会では、「社会人院生による実践研究（その1）研究と実践の《両立》と倫理的配慮」と題し、実践と研究を往還するプロセスで、特に留意すべき「倫理的配慮」や「客観性の担保」とは具体的にどのようなことなのかについて、働きながら大学院で学ぶ院生が直面する「実践者として自分の実践そのものや実践を通して直面した課題や疑問について研究することの困難や工夫」に焦点をあてて開催いたします。詳細については、関西地域ブロックのホームページをご覧ください。3回あるうちの1回は、留学生のためのテーマを設定していることとする関西地域ブロック委員会のねらいは、見事に成功しており、年々議論が深まっている様相を見せております。

今後とも、関西の地域特性を基盤とした自由な気風と活発な議論と研究を展開していければと思います。今後とも会員各位のご協力をお願いしたいと思います。

中国・四国地域ブロックから

中国・四国地域ブロック担当理事
杉山 博昭（ノートルダム清心女子大学）

中国・四国地域ブロックでは特定研究課題を設定して、ブロックで直面している福祉課題について、ブロック全体で取り組む試みを進めています。

2015年から2017年にかけて、「中山間地域の福祉課題」について研究を重ねました。その成果を『中国・四国発！ 地域共生社会づくりの課題と展望』として、2018年3月に発刊しました。

次の研究課題として取り組んでいるのは、福祉人材の確保です。介護職員の著しい不足や、社会福祉系学科への志願者の減少は、中国・四国地区でも深刻です。社会福祉士養成をとりやめる大学・専門学校も相次いでいます。そこで、実態を把握するとともに、対応を研究していくことにしました。

まず2019年3月9日に、「中国四国地方での福祉人材確保問題 日本人の就労状況と外国人の受入れの課題」というテーマで研究会を開催しました。そこでは、福原文徳氏（社会福祉法人日本原荘理事長、岡山県社会福祉法人経営者協議会）「社会福祉法人の人材確保の状況と取り組みの課題」、岡崎仁史氏（広島国際大学名誉教授）「広島県の社会福祉法人の福祉人材確保方策の現状と課題－国内の人材確保と外国人材確保」、久保田トミ子氏（広島国際大学）「アジア介護・福祉教育研修センターから見える、アジア諸国の介護問題と福祉政策の動向」の3つの報告がなされました。

さらに、7月13日に高知県立大学で行われた中国・四国地域ブロック第51回高知大会は、「中国・四国地方での福祉人材確保－日本人の就労と外国人の受け入れ－」をテーマとして開催しました。ブロック大会の詳細につきましては、本ブロック会報の19-1号に掲載し、学会ホームページから閲覧できます。

研究会やブロック大会の準備をしている途中でも、外国人についての政策が進んでいくなど状況が変化し、この問題の深刻さや動きの速さを痛感させられました。研究会・ブロック大会ではいずれも、現場からの報告がなされました。一日たりとも実践を中断するわけにいかない現実の中で、あらゆる手段で人材を確保すべく苦闘している状況を知ることができました。

現場で日々労苦している実態に比べると、研究者側の危機意識が足りないように思います。ほかにも、向き合うべき課題が地域内にあるはずです。中国・四国ブロックでは今後も、地域内での課題を把握して、研究の立場から解決の方策を見出していきたいと考えています。